

不登校対応について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、中学2年生であり、中学1年生の11月ごろから不登校となった。不登校の要因は、失敗体験や本人の思うように結果が伴わなくなったことから、過度なプレッシャーを感じてしまったことでストレスが重なり、心身の不調として表出されたことと思われる。

具体的な取組

当該生徒に対し、不登校担当教員と担任で、1年の3学期から放課後の部活動への参加、午後からの授業への参加、皆と同じように登校という「スモールステップで少しずつ階段を上げていこう」と提案し、継続した働きかけを行った。

担任だけではなく、学年主任・不登校担当など多くの教員が不登校生徒に関わることで、学校に対して少しずつ前向きな気持ちもてるようになり、行事へ参加することもできた。他の生徒と同じような学校生活は厳しくても、本人にとって負担のない生活を、教員・家庭で相談し実施している。

本校では不登校生徒に対して「+1（プラスワン）」を職員一同共有し、元担任・部活動顧問・学年主任など関わりやすい先生が保護者とも連絡をとる。対象生徒も不登校担当の教員が綿密に関わっている。

学級に入れない場合に、個別で学習ができる部屋を用意している。そこでは自習など、何時に何をどのくらい取り組んだかを記録に残している。その際も担任だけではなく、学年の教員で対応したりしている。学級に入れないから休むのではなく、一つハードルの低い別室を用意することで学校との関係を築けている。

本校の不登校のための別室



成果

当該生徒は、現在ではほぼ欠席することなく2校時から登校できるようになり、さらには学校行事にも参加できるようになった。今後も少しずつプラスの体験を積み重ね、学校への不安感を取り除き、自信をもって学校生活が送れるように支援していく。

課題

ここ数年で欠席をすることへのハードルが下がってきている。一人一人のニーズにあった対応が求められるが、人手が足りない現状がある。

チーム学校での登校支援について

不登校児童・生徒の状況

小学校からの登校しぶりが続いており、通級教室以外は保健室登校だった。自分の気持ちをうまく表現するのが苦手である。親との関係が不安定で、友達との対人関係にも不安や負担感がある。勉強したい気持ちはあるが、学習が積みあがっておらず、教室に入るのが難しい。

具体的な取組

◇アセスメント

生徒の情報共有のためのネットワークを校内等で構築し、生徒や家庭の状況、当該生徒の変化、課題の把握をスムーズに行った。

◇関係機関との連携

子ども家庭センターやスクールソーシャルワーカーと連携して、家庭の状況把握や課題の抽出を行い、学校と連携して支援計画を検討する。



◇スクールカウンセラーとの連携

週 1 回以上、当該生徒とスクールカウンセラーとの面談をもち、生徒が自分の気持ちを話したり、整理したりする時間を設定した。

◇別室登校

別室支援員との対話を通して、大人との信頼関係を結ぶ体験をさせ、ソーシャルスキルを身に付けさせる。積みあがっていない学習について、生徒の理解度やペースに合わせた指導を行い、できる喜びを体験させる。

成果

別室登校を始めて生活のリズムが整い、登校への意欲につながっている。また、自分のペースで学習できる安心感を得たことで小学校の復習から始め、中学校の学習に対しても前向きになってきた。SCやSSWにも自分の思いを伝えられるようになった。

課題

限られた人との交流が中心であり、集団での社会体験の機会が構成しづらい。また、学習支援に必要な人材の配置が必要である。

チーム学校での登校支援について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、小学校からの不登校が続いており、登校がまったくできなかった。自分の気持ちをうまく表現するのが苦手である。

2年生から朝学校へ担任や学年の教員に会いに来ることができるようになった。学年集会など後ろから見るができるようになったが、教室に入るのが難しい。

具体的な取組

◇アセスメント

生徒の情報共有を行い、2年生になり、学校でスタンプをもらうために登校して帰ることを繰り返しながら担任を含め、学校との関わりがもてるように取り組んだ。

時には別室で過ごすことができていた。3年生からは午前中を別室に登校することが可能になってきた。

担任だけではなく、学年主任・不登校担当など多くの教員が不登校生徒に関わることで、当該生徒は、学校に対して少しずつ前向きな気持ちもてるようになり、行事へ参加することもできた。他の生徒と同じような学校生活は厳しくても、本人にとって負担のない生活を、教員・家庭で相談し実施している。

学校には第二相談室があり、職員が常駐している。登校してきた際に安心して過ごせる居場所があり、担任等と面談ができ、生徒が自分の気持ちを話すことができる。



◇別室登校

第二相談室支援員と大人との信頼関係を結び、ソーシャルスキルを身に付けさせる。積みあがっていない学習について、生徒の理解度やペースに合わせた指導を行い、できる喜びを体験させることができる。

成果

別室登校を始めて、自分のペースで学習できる安心感を得たことで小学校の復習から始め、中学校の学習に対しても前向きになってきた。学校行事にも一緒に参加するまでには至らないが一緒の場所で過ごすことができるようになってきた。

課題

一人一人のニーズに合わせた人材が必要である。同年代の友達との交流ができる場や支援が課題である。